



病院NEWS

no. 356
2014
02/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



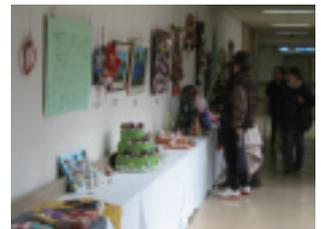
ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

冬の院内イベントを開催しました

医事課

平成25年12月18日(水)18時30分から第23回クリスマス音楽会を開催しました。千田病院長の開会の挨拶に続き、警察音楽隊の木管アンサンブル、放射線部佐々木さんのソプラノ独唱、総務課延原さんのクリスマスメドレーの演奏、トリを務めた看護部フレッシュナース合唱隊32人は、フレッシュな歌声とキャンドルサービスで会場に感動を届けました。阪井看護部長の挨拶で締めくくった60分間はあっという間のひとときでした。



また、22回目となった職員作品展を12月16日(月)から20日(金)の5日間行いました。見学者から心が温まった、やさしい気持ちになった、すてきな作品といった出品者達の励みになるような感想をたくさんいただきました。

がん診療連携拠点病院シリーズ 第3回「地域連携クリティカルパス」

がん相談支援センター

香川県がん診療連携協議会では、5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)について、香川県下で統一した地域連携クリティカルパス(以下「パス」と呼ぶ)の活用を推進し、患者さんにわかりやすく、安全で質の高い医療の提供を目指しています。パスとは、患者さんに納得していただいた上で、患者さんも含めて医師・看護師・薬剤師等が共同で利用できる診療体制、スケジュールを記載した表です。このパスに基づいて基幹病院の主治医と地域のかかりつけ医の2人が主治医になり、協力して診察を行います。基幹病院の主治医は、血液検査、CT検査、MRI検査などの精密検査と節目(3~12カ月)の診察を行います。また症状が変化した時には、かかりつけ医の判断で基幹病院の主治医が臨時的診察を行います。日々の診察(2週間~1カ月に一度)は地域のかかりつけ医が担当し、主に定期的な診察、お薬の処方、痛みや吐き気などの各種症状の診察や治療を行います。実際のパスの構成は、連携後の治療概要を説明する「地域連携診療計画書」、かかりつけ医と基幹病院の主治医の双方が情報交換を行いつつ、共有して使用する「医療者用治療記録シート」、患者さん自身が自分の病態を記録する「自己チェックシート」があります。これらの書類とその他の治療に関する書類を「私のカルテ」にファイリングし患者さんに常時、携行していただきます。

このパスの利点については次の4点が挙げられます。

- ① かかりつけ医と基幹病院の主治医の双方が診療情報を共有し、継ぎ目のない病診連携を行うことができます。
- ② 同じパスを共同利用することで、どの医療機関であっても同じ治療ができます。
- ③ 検査や投薬の重複をさけることができます。
- ④ 患者さん自身が自らの目標にむけ、自身の治療内容を理解し、経過を実感することができます。

また、5大がん以外に前立腺がん地域連携クリティカルパスを運用できるように現在香川県がん診療連携協議会の地域連携パス部会で準備中です。

なお、連携医療機関として「がん治療連携指導料(300点)」を算定するためには四国厚生支局に施設基準の届け出が必要です。

当院の事務担当連絡先医事課医事係までお申し出ください。

mail:iji@med.kagawa-u.ac.jp tel:087-891-2054

地域連携クリティカルパスの詳細については、香川県がん診療連携協議会のホームページをご覧ください。実際に運用されているパスもダウンロードできます。

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~gan/kyougi/index.html>



がんに関するご相談のことなら がん診療連携拠点病院がん相談支援センター

がんに関する相談について患者さんやご家族のほか、どなたでも無料でご利用できる窓口です。下記の病院で診察を受けていない方もご利用できます。

- 香川大学医学部附属病院 ☎087-891-2473(直通)
- 香川県立中央病院 ☎087-835-2222(内線317) (3/4移転)
- 高松赤十字病院 ☎087-831-7101(内線1171)
- 香川労災病院 ☎0877-23-3111(内線3100)
- 三豊総合病院 ☎0875-52-3366(内線1170)



「助産外来」のご案内

周産期科女性診療科病棟 看護師長 阿部 慈

当院は、周産期科女性診療科外来において「助産外来」を開設しております。助産外来とは、助産師が行う妊婦健診のことで、正常に経過している妊娠37週以降の妊婦さんが対象となります。助産外来では、通常の妊婦健診に加えて、妊婦さんが安心して楽しくマタニティーライフを過ごしていただけるよう、パースプランや出産への準備、母乳育児等についてゆっくりと時間をかけてお話をさせていただきます。妊婦さんやご家族が主体的に妊娠・出産・育児に取り組むことができるよう、継続した支援を行います。



「母乳外来」のご案内

当院は、出産後のお母さんが楽しく母乳育児をすすめていくことができるよう、退院後の授乳や乳房トラブルについてのご相談をお受けする「母乳外来」を開設しております。母乳外来では、助産師がお母さんと赤ちゃんのご自宅での授乳の様子をお伺いし、母乳育児に関する相談にお答えしながら乳頭・乳房のケアを行います。月曜日から金曜日の午後、完全予約制となっております。

「助産外来」および「母乳外来」の詳細については、周産期科女性診療科外来の助産師または病棟の助産師にお問い合わせください。

最新鋭のMRI装置の設置について

放射線部



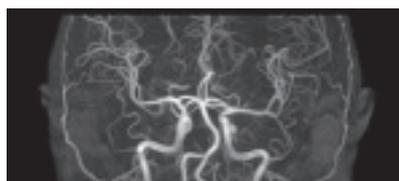
装置外観

3月より新しい3テスラのMRI装置が稼働します。県下での3テスラMRI装置導入は4施設目となります。昨年12月下旬より装置の据え付け作業が始まっています。

3テスラMRI装置の利点は、高磁場であることを活かした高解像度の画像が取得できることです。緻密な撮像により微細な病変を見つけることが可能になります。非侵襲的に組織や血流情報を高精細に描出することにより、画像診断精度に大きく寄与することができます。

当院に導入される装置には本邦で先駆的に導入される世界初の撮像技術が搭載されます。撮像範囲を任意の領域に絞ることができる局所励起技術(ZOOMit)は中国・四国地方で最初の導入となります。通常は局所のみを観察したい場合においても体全体を覆うような信号の取得を必要としていましたが、領域を絞った

撮像が可能となったことで検査時間の大幅な短縮や、心臓や腸管などのアーティファクト(人工偽像)の出る部位を外した撮像による高画質化など臨床応用の範囲が広がります。



高分解能脳血管 MRA

頭部の検査では高分解能血管撮像(MRA)、3次元拡散強調画像(3D-DWI)、スペクトロスコピー(MRS)、磁化率強調画像(SWI)、非造影灌流画像(ASL)などのいずれも1.5テスラ装置では難しい高画質の高度な撮像が可能です。

また装置の架台のトンネルの開口径が従来装置の60cmから70cmへと広がります。検査空間が広がることにより、閉所が苦手な方の不安を和らげ検査が受けやすい環境になります。また架台の奥行きも従来装置に比べて短いため検査時の閉塞感が緩和されます。

最新の3テスラMRI装置を導入して、先進のMRテクノロジーにより効率的で質の高い画像診断を実現し、今後も地域医療に貢献するために高度な医療の実践をして参ります。

ワクチン接種で肺炎予防

内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 講師 坂東 修二

いよいよ冬本番になり、今年もインフルエンザが流行するシーズンがやってきました。たとえインフルエンザに罹患したとしても、普段健康な若い人の場合は、多くは自然にあるいは抗インフルエンザ薬の内服により短期間で回復できます。しかし、心疾患、呼吸器疾患、腎疾患、糖尿病、血液疾患を有する方や65才以上の高齢者の方はインフルエンザにより体力が低下するため、しばしば肺炎を併発し、重篤な状態に陥ることがあります。インフルエンザに併発する肺炎はインフルエンザウイルスそのものが原因ではなく、その多くが肺炎球菌という名前の細菌によって引き起こされることが知られています。したがって、この肺炎を予防するためにはインフルエンザワクチンの接種はもちろんのこと、これに加えて肺炎球菌ワクチンの接種を行うことが有効であり、ここ数年、この肺炎球菌ワクチンの接種を希望される方が増加しています。

2011年から肺炎は日本人の死因第3位を占めるようになりました。肺炎で死亡された方の95%以上が65才以上の高齢者であり、この中には冬場のインフルエンザに併発した肺炎で亡くなられた方も多く含まれています。インフルエンザワクチンの接種は現在高齢者を中心に随分普及し、死亡者数の抑制に役立っていますが、肺炎球菌ワクチンも近年その肺炎防止効果が医学的に証明され、米国では65才以上の高齢者の半数以上が肺炎球菌ワクチンの接種を受けています。日本においては保険診療上、特定の疾患でしか肺炎球菌ワクチンの使用が認められていないため、未だ米国ほど普及していませんが、基礎疾患を有する方や65才以上の方など肺炎のリスクをお持ちの方にはお勧めできる肺炎予防法の一つと言えます。自治体によっては高齢者を中心に肺炎球菌ワクチンに対する公費助成を行っている所もあります。なお、肺炎球菌ワクチンは毎年行うインフルエンザワクチンと異なり、一度接種すると5年間有効です。

毎日新聞「四国健康ナビ」H25.12.11掲載

「1型糖尿病に対する治療“膵(すい)移植”」

消化器外科 病院助教 大島 稔

糖尿病には2種類あることを皆さんはご存知でしょうか。インスリンは膵(すい)臓から分泌され血糖値を調節するホルモンです。インスリンが相対的に不足したり、インスリンに抵抗性を示したりすることによって発症するのが2型糖尿病です。これに対して、インスリンがそもそも分泌されないのが1型糖尿病です。1型糖尿病は免疫異常などにより膵臓内でインスリンを分泌する細胞が破壊され、インスリン分泌が枯渇して発症します。1型糖尿病の多くは若年期に発症し、インスリン注射による血糖管理が不可欠となります。また、1型糖尿病の8割の方は腎障害を合併し、腎不全から透析療法が必要となります。1型糖尿病に対する治療として、膵移植という方法があります。移植を受ける方(レシピエント)のお腹の中に、臓器提供者(ドナー)の方からいただいた健康な膵臓を移植する方法です。腎不全を合併しているレシピエントの方には腎臓も同時に移植します(膵腎同時移植)。膵移植の方法は、現在では脳死のドナーの方から臓器提供を受ける脳死下膵移植が一般的です。本邦では膵移植は認定施設でのみ手術が可能であり、全国で17施設が認定されています。香川大学医学部附属病院もこの膵移植実施施設に認定されており、最近では2013年11月に当院でも膵移植が実施されました。これまでの本邦での脳死下膵移植の総数は183例であり(2013年12月現在)、2010年の改正臓器移植法施行後は急増しています。また、膵移植後1、3、5年目で各々85%、76%、69%の方においてインスリン注射が不要になっています(2012年末日統計)。

膵移植は1型糖尿病の方をインスリン注射や透析療法から解放するだけでなく、移植後の生命予後も改善できる可能性をもった医療です。1型糖尿病は発症からの経過が長くなる程、腎障害や動脈硬化などの合併症は悪化するため、発症から早い段階で膵移植を検討していただくのが望ましいとされています。ご興味を持っていただいた1型糖尿病の方や関係者の方は、お気軽に香川大学消化器外科に連絡して下さい。(お問い合わせ先:香川大学医学部消化器外科 087-891-2438)

毎日新聞「四国健康ナビ」H24.5.2掲載分を一部改稿いたしました

北アルプス三俣診療班に大町警察署より感謝状

手術部長 臼杵 尚志

臼杵 尚志手術部長が長年ボランティア活動をされている三俣診療班が、平成25年8月北アルプス双六岳で発生した山岳遭難の救助活動に対し、11月22日長野県大町警察署長より感謝状を贈呈されました。

北アルプス三俣診療班とは？

三俣蓮華岳や黒部源流の近い所にある三俣山荘に併設されている診療所にて、診療活動を行うボランティア団体です。夏の間、岡山大学、香川大学の医師、看護師、医系学生が主に活動を行っています。テレビドラマ「サマーレスキュー」のモデルにもなりました。



『臼杵部長よりコメント』

昨夏の活動で耳出血と片側麻痺を伴う頭部外傷の方を診療し、人命救助の感謝状を戴きました。当日は悪天候でヘリコプターは飛ばず、人力搬送にも人手がなく、薬品とテントを現場に運んで、ピバークさせながら加療しました。診療所に医師は1人しか居ず、そちらで高山病や骨折の方々を診つつ、現地の看護師に無線で点滴等の指示をしながらの一夜でした。翌朝、現地へ向かい、麓より着いた山岳救助隊と協議、人力での搬送を経て、一瞬の雲間をついた病院へのヘリコプター搬送に成功しました。脳外科で緊急手術を受けて、一命を取り留め、今は車の運転も可能と伺っています。

2つの山荘と診療所、そして山岳救助隊が一体となって成し得た事例と考えています。

平成25年度医学教育等関係業務功労者の表彰について

総務課

平成25年度医学教育等関係業務功労者として、本院検査部の「山岡 源治」氏及び放射線部の「岩崎 孝信」氏が、文部科学省から医学教育関係業務功労者として表彰されました。

これは、同氏の医学に関する教育、研究もしくは患者診療等の補助的業務に関し顕著な功労があった方が表彰されるものです。この受賞を受けて、12月26日(木)に、森医学部長及び千田病院長に受賞報告がありました。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~hospital/gairai/rinsyokenkyu.html>

イベントカレンダー H26.2~3月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
2/3 月	17:30~19:00	医学部管理棟4階 会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
2/4 火	18:30~19:00	香川県社会福祉総合センター6階第一研修室	香川県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
2/13 木	18:00~	医学部管理棟3階 応接会議室	大川地区・木田地区認知症患者医療連携協議会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
2/22 土	9:20~16:30	アルファあなぶきホール 小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第12回緩和医療に関する集中セミナー-in香川	腫瘍センター	(087)891-2075
2/28 金	19:00~	香川県庁21階 特別会議室	香川県知事と香川大学医学部生との意見交換会	地域医療教育支援センター	(087)891-2489
3/4 火	19:00~	医学部臨床講義棟2階 講義室	認知症患者医療センター研修会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
3/14 金	14:00~16:00	病棟地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談支援センター	(087)891-2473



編集委員会 (50音順)

石井(看護)、岩瀬(病棟)、岡田(総務)、鬼村(医事)、梶川(検査)、加藤(放射線)、唐木(外来)、白神(麻酔)、芳地(薬剤)、松本(看護)、安友(管理)、横井(情報)、
〔委員長 千田病院長〕